

鵜茅葺不合王朝第五十二代天皇にして、かつ大和朝廷初代の神武天皇以前に、  
王朝第二十四代天皇富秋足中置天皇が存在したことは、「神皇紀」にも載っている。  
かつその名前入り石碑が「国東半島」に発見されて、石碑前面に天皇の言葉も刻んである。  
これほどの物証があるのに、黙殺するのは科学的態度とはいえない。

## 心の母国を思い出そう (参考資料)

### 英雄・天才の出現：シヴァ神の霊言

「こういう言い方は不謹慎だが、未来文明の分岐点、まさに今 2020 年、未来社会の、文明の分岐点だと思う。英雄は必要だと思う。現代の英雄は武器を持って戦うわけじゃなくて、「今の中国が優れている」と思っているものを一刀両断にするような英雄が必要。中国の優位性を根本から覆すような天才も出てくるんじゃないのか。それさえ出れば、このエルカンターレの思想が一気に中国本土にも、さらにイスラム圏まで流れ込み始めると思う。」

**伝道の使命** (名古屋東支部御巡錫時の演題)：政党活動の役割は坊さん軍団の前に行く正規軍のようなもの。レンコン (蓮の根) を掘り起こす役割。その戦いが 2020 年まで続く。

**中国の優位性とは何か**：中華思想、華夷思想 (東夷、北狄、西戎、南蛮)？

中国 5 千年の史観の優位性を打ち砕くのは、3 万年の日本の歴史、日本思想ではないのか？

①富士高天原王朝 (静岡)      ②鵜茅葺不合王朝 (九州)      ③大和朝廷 (奈良)

### 第二十四代 富秋足中置天皇の碑文



『神皇紀』の記述で注目すべきことは、特に「神武王朝以前に二つの先行王朝があった」とするものである。同書によると「第一王朝は富士山麓の富士高天原にあった」という。また、その内容は『竹内文書』『上記』『東日流外三郡誌』などに符合する。

この第一王朝はその後、「大陸から九州西方に大軍 (おそらく武装移民集団) が多数押し寄せるといふ外寇により政情不安となったため、当時の言葉で附地見島 (九州) の守りを固めるために富士高天原王朝を阿蘇切枝間に遷し、海佐知昆古を元帥とする海軍力によって、神都を附地見島に遷してから千五百日にしてようやく全島の鎮圧が完了した」と記す。外寇撃退ののちは「海守の大本営は豊野の里 (宇佐の宮) に置き、阿蘇山に陸守の大本営と本陣を設けて日原野の里 (阿蘇山の宮) とし、国名を宇家潤不二合須国として鵜茅葺不合王朝は五十一代続いた。

さらにその後、「現在の近畿地方で白木 (新羅) 人の長髓彦を首領とする反乱勢力が跋扈し、今度は中央日本の政情不安が生じたので、鵜茅葺不合朝第五十一代の鵜茅葺不合尊の第四王子・日高佐野王が海上から久真野 (現在の和歌山県熊野あたり) から上陸し、湯野崎の水門近くの日高の宮を行宮として賊軍を撃破し、やがて奈良橿原宮で即位し、鵜茅葺不合朝第五十二代になるとともに、遷都して新王朝が始まった」という (以上は『神皇紀』からの要約引用)。記紀では (第 2 章) に述べたように、神倭伊波礼毘古命を人皇初代 (神武天皇) とし、天津日高日子波限建鵜茅葺不合命の第四子としつつ、以前の鵜茅葺不合王朝や富士高天原王朝の存在を消し去った。つまりは先行王朝を抹消して、一括して父親に統合することで見事に皇統譜を捏造したのである。

記紀に出てくる海幸彦・山幸彦の話にしても、先行王朝で活躍した海佐知彦を外寇撃退の大功労者としてではなく、海神の宮訪問の物語に改変することで消し去り、別の神話に仕上げていく。